

## イエス様の悪魔に対する勝利

2016年2月25日、小平家庭集会  
ゴットホルド・ベック兄

### マタイ

3:16 こうして、イエスはバプテスマを受けて、すぐに水から上がられた。すると、天が開け、神の御霊が鳩のように下って、自分の上に来られるのをご覧になった。  
3:17 また、天からこう告げる声が聞こえた。「これは、わたしの愛する子、わたしはこれを喜ぶ。」

4:1 さて、イエスは、悪魔の試みを受けるため、御霊に導かれて荒野の上って行かれた。  
4:2 そして、四十日四十夜断食したあとで、空腹を覚えられた。  
4:3 すると、試みる者が近づいて来て言った。「あなたが神の子なら、この石がパンになるように、命じなさい。」  
4:4 イエスは答えて言われた。「『人はパンだけで生きるのではなく、神の口から出る一つ一つのことばによる。』と書いてある。」  
4:5 すると、悪魔はイエスを聖なる都に連れて行き、神殿の頂に立たせて、  
4:6 言った。「あなたが神の子なら、下に身を投げてみなさい。『神は御使いたちに命じて、その手にあなたをささえさせ、あなたの足が石に打ち当たることのないようにされる。』と書いてありますから。」  
4:7 イエスは言われた。「『あなたの神である主を試みてはならない。』とも書いてある。」  
4:8 今度は悪魔は、イエスを非常に高い山に連れて行き、この世のすべての国々とその栄華を見せて、  
4:9 言った。「もしひれ伏して私を拝むなら、これを全部あなたに差し上げましょう。」  
4:10 イエスは言われた。「引き下がれ、サタン。『あなたの神である主を拝み、主にだけ仕えよ。』と書いてある。」  
4:11 すると悪魔はイエスを離れて行き、見よ、御使いたちが近づいて来て仕えた。

ドイツの歌があります。内容は、『私の主であるイエスは勝利者であり、生きておられるお方です。』これこそが、我々の喜びの根拠です。

イエス様を知るようになった人々は、イエス様に従っていかうと、心から願っています。すなわち、イエス様が人生の土台であり、人生の全てであり、そして同時に、人生の目的であるべきです。

このマタイ伝4章の10節に、『あなたの神である主を拝み、主にだけ仕えよ、』とあります。この箇所は、イエス様が荒野で試みられたときに、語られたものです。この聖書の個所にひとつの題をつけるならば、『イエス様の勝利者』です。『イエス様の悪魔に対する勝利』とつけることができるのではないかと思います。ただ逆境においてのみ、また、困難の中においてのみ、人は自分のうちに一体どんなものが潜んでいるかを知るようになります。

イエス様は、ここで書き表わすことができないほどに、非常な苦しみの中に置かれていました。イエス様はそのとき、悪魔の誘惑のうちに試みられていました。けども、この試みの中にあつて、なお、私たちはイエス様の偉大さを見ることができます。4章1節、『イエス様は御霊に導かれた、』と書いてありますね。すなわち、それは、イエス様は100パーセント、御霊によってのみ導かれたのであつて、決して、自分からは行動を行うことなどあり得なかったのです。ただ一瞬たりとも、イエス様は、ご自分の思うところに従わなかったのです。いちども、イエス様は自分の考え、自分の感情、自分の意志によって行動したことはありませんでした。

ヨハネ伝の中で次のような箇所があります。イエス様の弟子と話してくださった箇所です。

### ヨハネ

14:30 わたしは、もう、あなたがたに多くは話すまい。この世を支配する者が来るからです。彼はわたしに対して何もすることはできません。

どうして、悪魔は『この世の支配者』でありながら、イエス様に対しては何もできなかったかと言いますと、イエス様は天の父なる神に対して、いかなるときにも、まったく服従したのであつて、その従順なイエス様に対して、悪魔は何もできなかったんです。ここで、二つの世界がぶつかりあうのを私たちは見ますね。ひとつは『主なる神の世界』。ひとつは『悪魔の支配する世』。それは光と闇、真実と偽りの対立です。

### マタイ

3:16 こうして、イエスはバプテスマを受けて、すぐに水から上がられた。すると、天が開け、神の御霊が鳩のように下って、自分の上に来られるのをご覧になった。  
3:17 また、天からこう告げる声が聞こえた。「これは、わたしの愛する子、わたしはこれを喜ぶ。」

父なる神、また、御子なる神であるイエス様、そして、御霊なる神は、『世の救い主』を示したのです。イエス様は洗礼を受けられ、その洗礼を受けることによって、自分のいのちを世の救いのために捧げることを明らかにされたのです。マルコの福音書の中の一節、大切な一節です。

## マルコ

10:45 人の子が来たのも、仕えられるためではなく、かえって仕えるためであり、また、多くの人のための、贖いの代価として、自分のいのちを与えるためなのです。

イエス様が洗礼を受けられたとき、天が開けて御霊がくだり、次のような声が聞こえました、『これは、わたしの愛する子、わたしはこれを喜ぶ。』

これこそが、いわゆる三位一体の啓示そのものです。私たちはこの箇所を読むと、主イエス様のみが神の御心にかなつたものであることに気が付きます。イエス様のみが父なる神の喜びそのものです。しかし、誰でもイエス様を自分の救い主として受け入れた者は、主なる神の愛を体験することができます。

このことを説明するために、ひとつの事実を読んだことがあります。戦争中のことですが、ドイツである裁判官が必死になって仕事をしました。その時、急にノックをする音に気が付いて、裁判官が戸を開くと、そこに一人の青年が立っているのを見つけました。その青年はたった今、戦争から帰ってきたばかりで、全身は泥にまみれて、ひどくみずぼらしい、みじめな恰好をしていました。その時、裁判官は非常に忙しくしており、彼のことをかまわないで、続けて仕事をしようと思っていましたけど、その時、その青年が差し出した手紙を見た時、思わず、持っていたペンを落としてしまった。見覚えのある字がその手紙の表に書かれていたから。なんとそれは、戦場にいるはずの一人息子の手によるものでした。裁判官は急いで、手紙を開けて読みましたが、それは次のように、書かれていました。『愛するお父さん、この人は僕の、戦場で知り合った友だちです。彼はもう治ることのない病気のために、病院を出て、国に帰されました。どうかお父さん、この友だちを、僕のように、自分の息子だと思って、大切にあなたの家においでください。僕の心からの願いをどうぞ、聞いてください。』その時、父親は、この裁判官は、飛び上がって喜んで、息子の言ったとおりに、この青年を彼の息子と同じように愛し、いつくしんだのだと。

主なる神の愛は、御子なるイエス様を受け入れて、悔い改めた者の上に注がれるのです。エペソ人への手紙の中に次のような箇所があります。よく引用される箇所です。

## エペソ

1:6 それは、神がその愛する方によって私たちに与えてくださった恵みの栄光が、ほめたたえられるためです。

誰でもイエス様を受け入れる者は、永遠のいのちを持ち、主なる神に喜ばれる者となったのです。けど、『イエス様を拒む者は、主なる神の怒りがその上にとどまる。』と聖書は

言っています。

40日の間、イエス様は荒野におられ、断食をして、祈られたのです。それは、イエス様のこの世における公の奉仕の準備のときでした。祭司でも、預言者も、王でも、油を注がれることなしに、その務めに入ることは許されませんでした。油の注ぎは、聖霊に満たされることを象徴します。荒野での体験は、イエス様のこの世のために全く自分を捧げる準備が出来ていることを明らかにしています。そして、その生涯の終わりに、イエス様は次のようにいうことができたのです。祈りの中のイエス様の告白です。

## ヨハネ

17:4 あなたがわたしに行なわせるためにお与えになったわざを、わたしは成し遂げて、地上であなたの栄光を現わしました。

地上において主なる神の栄光を現わすことは、最初のアダムの務めだったのです。すべてのものが、このアダムにゆだねられていました。

ただ、そのときに、ひとつの条件が与えられており、それは全き主の支配のもとに、生活をするということでした。その時、すべての被造物の支配者であったアダムは、いわゆる樂園に住んでおりましたが、悪魔に誘惑されたとき、耳を貸し、悪魔のこぼを信じてしまいました。彼は自分の考えと、自分の思いによって、主なる神に逆らう道を選んでしまいました。主なる神から離れることによって、彼はすべてのものを失った。

コリント第一の手紙の中で、最初のアダムと最後のアダム、そういう言葉が出てきます。

## 第1コリント

15:45 聖書に「最初の人アダムは生きた者となった。」と書いてありますが、最後のアダムは、生かす御霊となりました。

15:46 最初にあったのは血肉のものであり、御霊のものではありません。御霊のものはあとに来るのです。

15:47 第一の人は地から出て、土で造られた者ですが、第二の人は天から出た者です。

聖書はイエス様のことを、最後のアダムと呼んでいます。この最後のアダムは悪魔の試みにあいました。けれど、この最後のアダムであるイエス様は、第一のアダムと同じように樂園におかれたのではなく、まさに、荒野において、悪魔の誘惑を受けたのです。また、イエス様は、第一のアダムのように、決して支配者の立場を取られようとせず、身を低くして貧しい者の姿をとられました。ピリピ人への手紙の中でこの事実について、次のことばで証されています。

## ピリピ

2:6 キリストは、神の御姿であられる方なのに、神のあり方を捨てるができないとは考えないで、

2:7 ご自分を無にして、仕える者の姿をとり、人間と同じようになられたのです。

2:8 キリストは人としての性質をもって現われ、自分を卑しくし、死にまで従い、実に十字架の死にまでも従われたのです。

イエス様は全く従順であられたが故に、この世の滅びゆく全人類の救い主となられました。父なる神に対する『全き服従』を通して、イエス様は第一のアダムが失ったすべてのものを再び得られました。第一のアダムはその不従順によって神の栄光を失ってしまった。

## ローマ

3:23 すべての人は罪を犯したので、神からの栄誉を受けることができない。

人間は神の怒りを受ける者となってしまった。エペソ書 2 章 3 節によると、人間は神の怒りを受ける者となってしまった。そして、悪魔がこの世の支配者となってしまった。コリント第二の手紙を見ると、悪魔は、『この世の神』と呼ばれています。

## 第 2 コリント

4:4 この世の神が不信者の思いをくらませて、神のかたちであるキリストの栄光にかかわる福音の光を輝かせないようにしているのです。

次に、イエス様の受けられた誘惑、3 種類の誘惑についてちょっと考えてみましょうか。

旧約聖書の中で、来るべき救い主は、まことの祭司として、そして、まことの預言者として、そして、まことの王として書かれています。そして、このマタイ伝の記事の中でも、私たちはイエス様がまことの祭司、まことの預言者、まことの王として書かれているのを見ることができます。

最初の誘惑を通して、イエス様おひとりだけが、この世において、全く罪のない方であることを知ります。全く罪のないイエス様は、同時に、まことの祭司であり、仲介者であります。この試みを通して、イエス様はご自分が、この人類を完全に救う能力をもってることをお示しになりました。

第二の誘惑を通して、イエス様おひとりだけが、決して、偽ることのないお方であることを証明なさいました。まことの預言者として、イエス様は悪魔の偽りをはっきりと拒否されました。

そして、第三の試みを通して、イエス様は、ご自分が悪魔

に対する完全な勝利者であることを示されました。まことの王として、イエス様はすべての誤った礼拝を拒否されたのです。

最初の試みは、『もし、あなたが神の子なら、この石がパンになるように命じなさい』という悪魔の言葉でした。神の子とは、言うまでもなく神です。肉体を取った永遠なる神です。『悪魔』とは、単なる影響力とか、単なる力ではなく、ひとつの人格を持つものです。悪魔は、この世の支配者であると聖書は言っています。そして、悪魔の目的とするところは、人をその滅びの罠へと導き、永遠の破滅へ陥れることです。聖書は、悪魔のことを、『訴える者』、『偽る者』、『人殺し』と呼んでいます。

イエス様は、もちろん簡単に、石をパンにすることができました。マタイ伝 3 章 9 節によると、イエス様は、『神はアブラハムの子孫を起すことができなくなる』と、おっしゃったのです。

その事実として、イエス様はただ五つのパンで 5 千人もの男子の空腹を満たしました。そしてまた、12 かごのあまりさえ出たほどでした。イエス様は、悪魔の攻撃に対して、次のことばで応じられました。

## 申命記

8:3 それで主は、あなたを苦しめ、飢えさせて、あなたも知らず、あなたの先祖たちも知らなかったマナを食べさせられた。それは、人はパンだけで生きるのではない、人は主の口から出るすべてのもので生きる、ということ、あなたにわからせるためであった。

イエス様は、人として、天の父なる神に、全く服従の立場をとられました。イエス様は、この地上において、ただ父なる神の栄光を現わすことのみを願われ、ただの一度も自分のために生きようとはなさいませんでした。父なる神のみこころを行なうことだけが、イエス様の唯一の願いであり、喜びでした。詩篇の作者であるダビデは次のように書いたのです。これこそがイエス様の心構えだったのではないのでしょうか。

## 詩篇

40:8 「わが神。私はみこころを行なうことを喜びとします。あなたのおしえは私の心のうちにあります。」  
40:9 私は大きな会衆の中で、義の良い知らせを告げました。

そして、ヨハネ伝の中で、また、イエス様は次のように告白して、証しました。

## ヨハネ

4:34 わたしを遣わした方のみこころを行ない、そのみ

わざを成し遂げることが、わたしの食物です。

石ころからパンを作ることは、決して罪ではありませんでした。けれど、イエス様はただ一度さえも、自分の思うままに行動なさろうとはしなかったのです。

ヨハネ

5:19 そこで、イエスは彼らに答えて言われた。「まことに、まことに、あなたがたに告げます。子は、父がしておられることを見て行なう以外には、自分からは何事も行なうことができません。

5:30 わたしは、自分からは何事も行なうことができません。ただ聞くとおりにさばくのです。そして、わたしのさばきは正しいのです。わたし自身の望むことを求めず、わたしを遣わした方のみこころを求めるからです。

8:28 また、わたしがわたし自身からは何事もせず、ただ父がわたしに教えられたとおりに、これらのことを話していることを、知るようになります。

イエス様は、自分の自由意志でもって、喜んで、心から自分の生涯を父なる神のみこころと導きのうちに投じました。そして、イエス様は、自分が天の父に服従するのを妨げるすべてのものを退けました。

私たちは、次のことに注意を向けなくてはなりません。すなわち、イエス様の勝利の秘訣は、常に、私たちの主なる神のことばへの全き服従にかかっているのです。

何十年か前に、いわゆる統一教会から、一人の学生が集会に訪れました。けど、この学生は次のように言っていました。『私は、この集会の在り方に全く反対。なぜなら、この集会の人たちは、聖書に忠実だからです』と。もし、私たちがただ聖書にのみ従うならば、統一教会は我々に対して何の力もなくなり、同時に、その裏に働く悪魔は我々の邪魔をすることはできません。

イエス様の武器はなんだったでしょう？みことばだったね。神の御言葉はどうしてそんなに大切か。光を現すからです。ダビデ、御心にかなうと呼ばれたダビデは詩篇 119 篇を見ると、次のように告白したのであります。すなわち、言葉は光を与える。

詩篇

119:105 あなたのみことばは、私の足のともしび、私の道の光です。

ダビデは、『御言葉は灯台(のような)ものです、光を与えるものであるからです。』光だけでなく、喜びも与えられるのでしょうか。

詩篇

119:162 私は、大きな獲物を見つけた者のように、あなたのみことばを喜びます。

もちろん、ダビデだけではなく、昔の預言者であるエレミヤも同じことを経験しました。皆さん、何回もお聞きになった言葉です。本当にすばらしい証しです。

エレミヤ

15:16 私はあなたのみことばを見つけ出し、それを食べました。…

分かったのではなく、暗記したのでもない。食べた。

エレミヤ

15:16 …あなたのみことばは、私にとって楽しみとなり、心の喜びとなりました。

御言葉を通して、光が与えられ、喜びが与えられる。もうひとつ、みことばは真理そのものです。

詩篇

119:160 みことばのすべてはまことです。

ダビデはこう告白したのです。もちろん、イエス様の取られた態度も同じものでした。祈りの中でイエス様は告白しました。ひと文章だけです。

ヨハネ

17:17 あなたのみことばは真理です。

祈りの中でイエス様はこう告白してくださったのです。『あなたのみことばは真理です。』イエス様は決して、パンをもって人を従わせようとはなさいませんでした。人は物質的に多く恵まれていても、心の奥には常に大きな餓え渴きをもっているものです。今日、我々の背負っている最も大きな問題のひとつは、私たちが物質的にそのように豊かになったにも関わらず、心のうちでは貧しく、餓え渴いていることなのではないでしょうか。イエス様が当時、答えられた言葉が出ています。

マタイ

4:4 イエスは答えて言われた。『人はパンだけで生きるのではなく、神の口から出る一つ一つのことばによる。』と書いてある。」

『神の口から出ることば』とは、いったい何を意味しているのでしょうか。それはまさに、聖書に書かれている『神のみことば』であり、同時に、それはイエス様ご自身を現わしています。

## ヨハネ

6:33 というのは、神のパンは、天から下って来て、世にいのちを与えるものだからです。

6:35 わたしがいのちのパンです。わたしに来る者は決して飢えることがなく、わたしを信じる者はどんなときにも、決して渴くことはありません。

6:37 父がわたしにお与えになる者はみな、わたしのところに来ます。そしてわたしのところに来る者を、わたしは決して捨てません。

6:38 わたしが天から下って来たのは、自分のこころを行なうためではなく、わたしを遣わした方のみこころを行なうためです。

6:40 事実、わたしの父のみこころは、子を見て信じる者がみな永遠のいのちを持つことです。

6:47 まことに、まことに、あなたがたに告げます。信じる者は永遠のいのちを持ちます。わたしはいのちのパンです。

6:51 わたしは、天から下って来た生けるパンです。だれでもこのパンを食べるなら、永遠に生きています。

主なる神のみことばは、また、主の意志でもあります。主なる神は、人間を救いたいと思っておられます。

## マタイ

1:21 この方こそ、ご自分の民をその罪から救ってください方です。

主なる神は、あらゆる人間を心から許そうと願っておられます。ヨハネ第一の手紙にすばらしい約束があります。

## 第一ヨハネ

1:9 もし、私たちが自分の罪を言い表わすなら、神は真実で正しい方ですから、その罪を赦し、すべての悪から私たちをきよめてくださいます。

最初の誘惑を通して、私たちはイエス様だけが罪のないお方であり、父なる神のみこころを行なうことのみを願っておられたことを知ります。イエス様は父のみこころ、すなわち、この人類をその罪の中から救うことを願われ、何ひとつ自分のために生きようとはなさいませんでした。それゆえ、イエス様は真の祭司であられ、聖なる神と我々の唯一の仲介者となりました。イエス様のみが私たちの罪の問題を解決なさいます。

罪は、我々を主なる神から遠く引き離してしまった。その隔

たりとなった『罪の壁』を、イエス様はご自分の十字架の死をもって取り除かれました。イエス様は、私たちが当然、受けるべきはずの罪に対する刑罰をご自分で負われました。もう一箇所、読んで終わります。

## 第2コリント

5:21 神は、罪を知らない方を、私たちの代わりに罪とされました。それは、私たちが、この方において、神の義となるためです。

## 第1テモテ

2:5 神は唯一です。また、神と人との間の仲介者も唯一であって、それは人としてのキリスト・イエスです。

テモテ第一の手紙にも、書き記されています。

終わり